

河川における高潮対策整備方針検討委員会（第4回） 議事要旨

日時：令和7年2月10日（月） 10：00～11：30

主な意見は以下のとおり。

- 方針策定後においてモニタリングが大事であり、海面上昇や気温変化など気候変動の状況を確認するタイミングを考えていけると良い。
- 整備の優先度が高い河川は、整備時期を見据えながらモニタリングを行い、気温上昇シナリオの選定などを含め検討し、手戻りなく整備を行えるとよい。
- 海面上昇量の設定に用いている「日本の気候変動 2020」が今年度アップデートされる予定であり、最新の知見として確認するとよい。
- スーパー堤防において、気温上昇シナリオが変化し仮に高さが不足する場合は、高台としての避難機能等の観点を踏まえた対策を検討していけるとよい。
- 海外では B/C といった定量的評価だけでなく、定性的評価に基づく多様な効果を含め評価している事例もあり、日本においても評価方法は考えていく必要がある。
- 台風を中心気圧の再現期間など確率には幅があることは、今後も念頭に置く必要がある。今後の気候変動等の状況を見据えながら、どう軌道修正していくかを議論していくとよい。
- 海外と比較して、東京のウォーターフロントの良いところは、落ち着きや品格のある防災計画・まちづくりがなされている事であり、今後もそこを強く意識した計画・施工を行ってほしい。

以上